

平成26年12月期(第7期) 通期決算説明会

平成27年2月16日
ラクオリア創薬株式会社



RaQualia
Innovators for life



目次

平成26年12月期 通期実績	3
主な研究開発ポートフォリオの状況	8
導出済みポートフォリオの状況	17
平成27年12月期予算	22
平成27年12月期ラクオリアの今後の取り組み	24

平成26年12月期 通期実績

平成26年12月期(第7期)通期の概況

全般

- 当社の今期業績は、導出契約の遅れに伴う事業収益の未達、および本社・研究所（一部）の移転に伴う事業費用の増加等によって期初の業績予想を下回る結果となりました。
- 自社及び提携先での臨床試験（開発）は概ね計画通り推移し、また、共同研究もそれぞれ順調に推移しております。
- 産学連携による新たな契約の締結と収益の根幹となる知的財産権の強化により、計画達成に向け、引き続き邁進してまいります。

事業面

- アシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の国内第 I 相臨床試験の開始
- ダルババンシン(RQ-2、導出先Durata Therapeutics Inc.)が米国FDA承認取得、販売開始
- 名古屋大学との産学協同研究部門「薬効解析部門」設置
- 京都大学iPS細胞研究所ならびにiPSポータルと共同研究契約締結
- 本社、生物研究部移転(知多郡武豊町→名古屋駅前、名古屋大学)
- アシッドポンプ拮抗薬等、合計11件の新規特許の取得を発表

業績

- 事業収益 ; 153 百万円（前期事業収益；228 百万円）
- 営業損失（△） ; △ 2,183百万円（前期営業利益；△2,137 百万円）
- 経常損失（△） ; △ 2,116百万円（前期経常利益；△1,819 百万円）
- 当期純損失（△） ; △638百万円（前期当期純利益；△1,108 百万円）

平成26年12月期 損益計算書

(単位:百万円)

	(実績)	(前年実績)	増減	増減率	
事業収益	153	228	△ 74	—	
事業費用	2,337	2,366	△ 29	△ 1.2%	
営業損失(△)	△ 2,183	△ 2,137	△ 46	2.1%	
経常損失(△)	△ 2,116	△ 1,819	△ 297	16.3%	前年度は投資損失引当金戻入額(260百万円)の計上
当期純損失(△)	△ 638	△ 1,108	469	△ 42.3%	投資有価証券の売却

決算ハイライト

- 事業収益は、契約一時金収入、共同研究による収入、マイルストーン収入を計上しました
- 事業費用は、本社・研究所移転に伴いランニングコストの削減が進んだ一方、研究開発の進展に伴い前年同水準となりました
- 経常損失は、前年度に投資損失引当金戻入額2.6億円を計上したことに加え、今期は社債利息等を計上したことに伴い、前年比で2.97億円損失が増える結果となりました
- 特別利益として当社投資先であるアラタナ社の株式売却益を計上した結果、前年比で4.69億円改善しました

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

平成26年12月期 貸借対照表

(単位:百万円)

	平成26年12月期 (当事業年度)		平成25年12月期 (前事業年度)		増減	要因
	(実績)	(構成比)	(実績)	(構成比)		
流動資産合計	3,272	62.7%	4,363	65.6%	△ 1,091	
現預金	1,903	36.5%	4,035	60.7%	△ 2,132	事業経費、移転、資産運用
その他	1,368	26.2%	328	4.9%	1,040	投資有価証券の運用
固定資産	1,944	37.3%	2,284	34.4%	△ 340	
有形無形固定資産	100	1.9%	18	0.3%	82	
投資その他	1,843	35.4%	2,265	34.1%	△ 422	投資有価証券の売却
資産合計	5,216	100.0%	6,648	100.0%	△ 1,432	
負債合計	530	10.2%	902	13.6%	△ 372	
純資産合計	4,685	89.8%	5,746	86.4%	△ 1,061	
負債・純資産合計	5,216	100.0%	6,648	100.0%	△ 1,432	

決算ハイライト

- 流動資産は、前年比で10.91億円マイナス
- 投資その他は、投資有価証券の売却及び資産運用により、4.22億円のマイナス
- 純資産合計は、前年比で10.61億円マイナス

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

平成26年12月期 キャッシュフロー

(単位:百万円)

	平成26年12月 期 (当事業年度)	平成25年12月 期 (前事業年度)	増減	要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,081	△ 2,179	98	本社・研究所移転
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 796	951	△ 1,747	前年度の投資有価証券売却益 及び今年度の資金運用
財務活動によるキャッシュ・フロー	761	309	452	新株予約権による資金調達、社 債による資金調達(※子会社)
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,030	△ 854	△ 1,176	
現金及び現金同等物の期首残高	4,035	4,889	△ 854	
現金及び現金同等物の期末残高	2,004	4,035	△ 2,031	

決算ハイライト

- 営業活動によるCFは、本社・研究所移転等に伴い、0.98億円プラスとなりました
- 投資活動によるCFは、前年度の有価証券売却益と今年度の資金運用により、17.47億円マイナスとなりました
- 財務活動によるCFは、新株予約権等による資金調達を行ったため4.52億円プラスとなりました
- 現金及び現金同等物の期首残高は、前年比で8.54億円減少し、期末残高は20.31億円減少しました

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

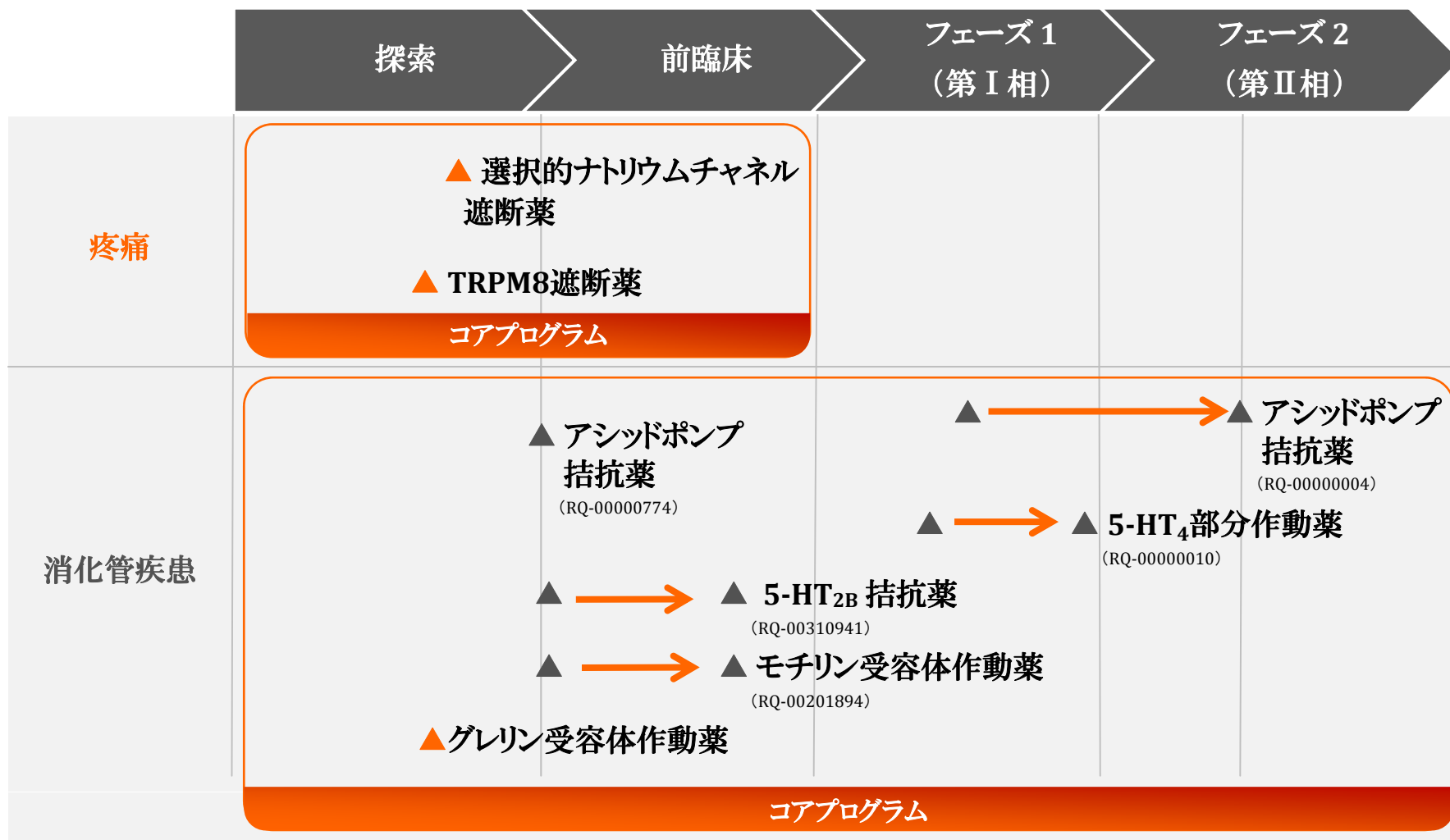
主な研究開発ポートフォリオの状況



主な研究開発ポートフォリオの状況

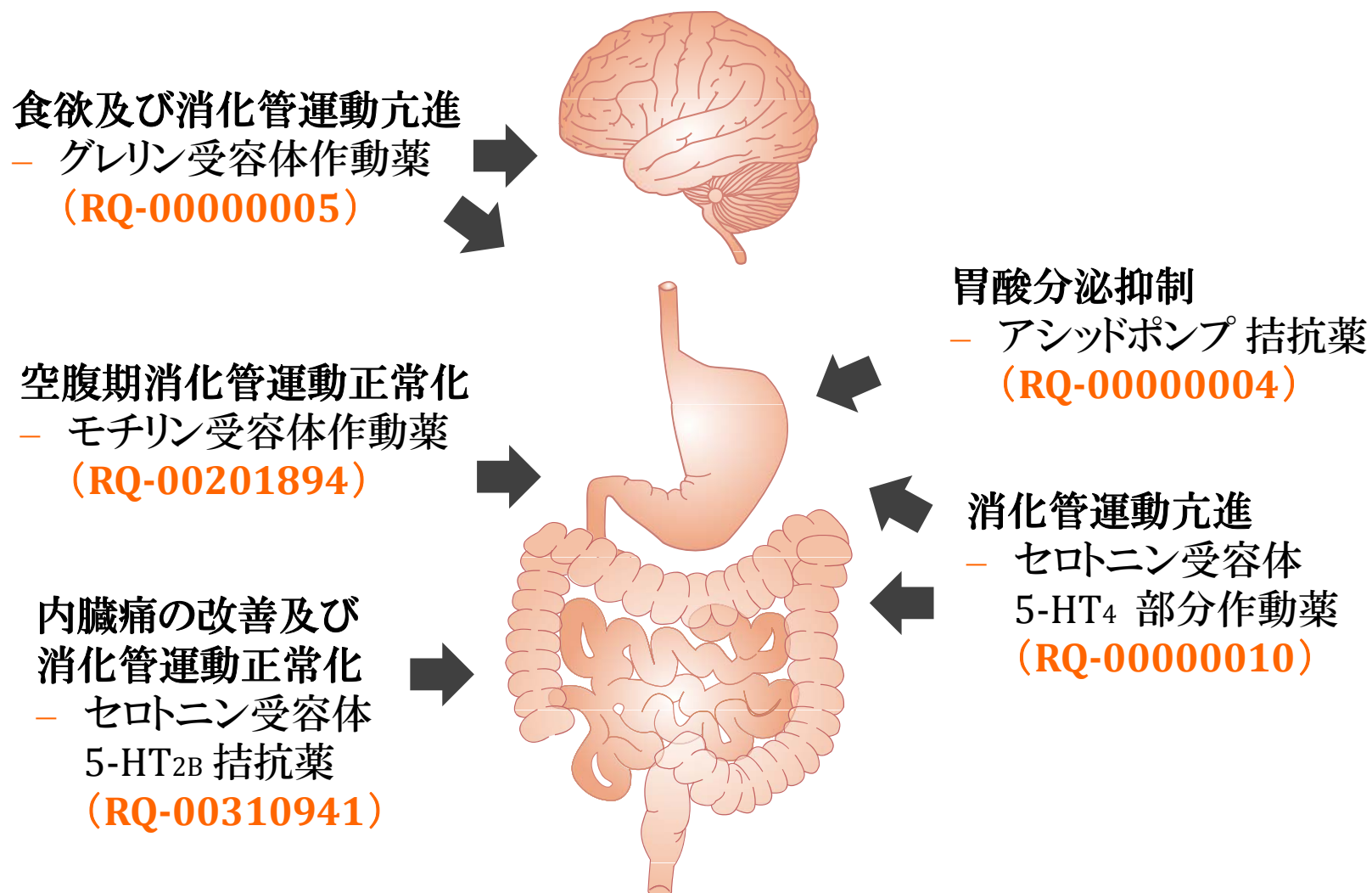
- 導出候補プログラムとステージ

平成27年2月現在



ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

充実した消化管疾患のポートフォリオ





コア・プロジェクトの開発状況

アシッドポンプ拮抗薬(RQ-00000004)

開発状況

- | | | |
|-------|-----|--------------------------------|
| 平成25年 | 3月 | 米国における物質特許 特許査定 |
| | 5月 | CJヘルスケア(旧CJ第一製糖)が韓国で第Ⅱ相臨床試験を開始 |
| | 10月 | 米国における用途特許 特許査定 |
| 平成26年 | 6月 | 日本における第Ⅰ相臨床試験の開始 |
| | 12月 | 日本における用途特許 特許査定 |

5-HT₄部分作動薬(RQ-00000010)

開発状況

- | | | |
|-------|----|---|
| 平成25年 | 5月 | 英国にて第Ⅰ相臨床試験終了 |
| 平成26年 | 5月 | 米国ヴァージニア・コモンウェルス大学でパーキンソン病患者を対象とした医師主導臨床試験を開始 |
| 平成26年 | ～ | グローバルでの第Ⅱ相臨床試験の実施・検討 |



パイプラインの状況

- コアプログラム: ヒト領域

消化器疾患領域

- アシッドポンプ拮抗薬(RQ-00000004)は、平成26年6月に国内で第 I 相臨床試験を開始しました。
- 5-HT₄部分作動薬(RQ-00000010)は、グローバルでの第 II 相臨床試験の実施を検討中です。
- 5-HT_{2B}拮抗薬(RQ-00310941)、モチリン受容体作動薬(RQ-00201894)は報告書の作成と第 I 相臨床試験実施を検討中です。
- グレリン受容体作動薬は、候補化合物を探索中です。

疼痛領域

- 選択的ナトリウムチャンネル遮断薬、TRPM8遮断薬は候補化合物を探索中です。

当社が注力する領域

プロジェクト	化合物	主適応症	探索	前臨床試験	臨床試験			申請	承認	販売	導出先	実施地域	疾患領域
					第 I 相	第 II 相	第 III 相						
アシッドポンプ拮抗薬	RQ-00000004	胃食道逆流症	○	○	●						-	日本	消化器疾患
5-HT ₄ 部分作動薬	RQ-00000010	胃不全麻痺 機能性胃腸症 慢性便秘	○	○	●	○					-	英国	
5-HT _{2B} 拮抗薬	RQ-00310941	下痢型過敏性腸症候群	○	●							-	日本	
モチリン受容体作動薬	RQ-00201894	胃不全麻痺	○	●							-	日本	
グレリン受容体作動薬	-	ガンに伴う食欲不振	●								-	日本	疼痛
選択的ナトリウムチャンネル遮断薬	-	神経因性疼痛	●								-	日本	
TRPM8遮断薬	-	神経因性疼痛	●								-	日本	

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。



共同研究契約（平成22年～平成26年12月）

平成22年

12月 **イーライ・リリー(米国)**と特定のイオンチャネルプロジェクト

平成24年

10月 **味の素製薬**と特定のイオンチャネルプロジェクト

平成25年

2月 **インタープロテイン**と蛋白質間相互作用を標的とした創薬研究

3月 **カルナバイオサイエンス**と特定のキナーゼを標的とした創薬研究

11月 **旭化成ファーマ**と特定のイオンチャネルプロジェクト

4月 **旭化成ファーマ**と共同研究でマイルストーン達成

5月 **京都大学iPS細胞研究所**ならびに**iPSポータル**と共同研究

平成26年

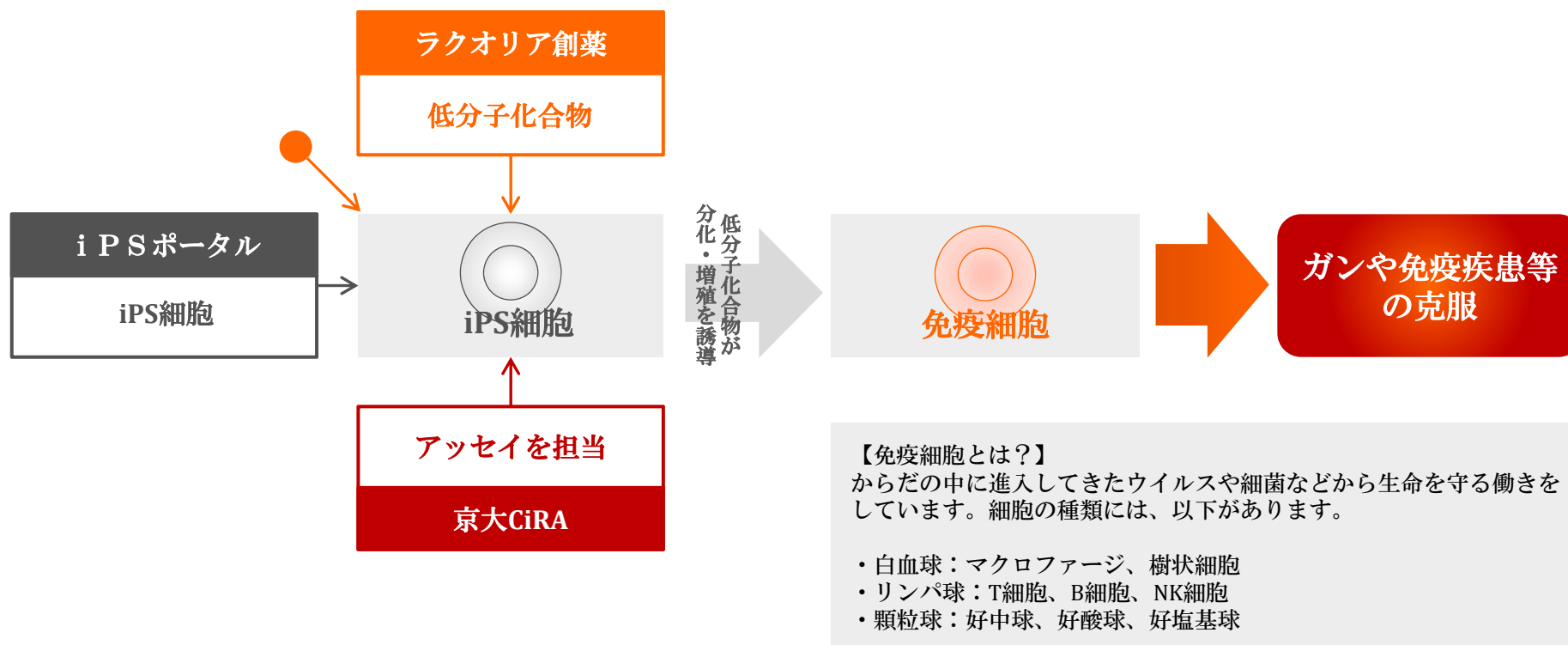
6月 **イーライ・リリー(米国)**との共同研究契約の満了に伴い覚書締結

7月 当社が参加する「製造コストの大幅削減を可能にするエイズ治療薬中間体の革新的合成」が公益財団法人科学技術交流財団により共同研究推進事業に採択

共同研究TOPICS

京大CiRA(※)、iPSポータルとの共同研究の概要

- 当社の保有する化合物ライブラリーより、iPS細胞から免疫細胞への分化・増殖を誘導する低分子化合物の探索をします。
- 本共同研究を進めることで、iPS細胞から免疫細胞の効率的な作成技術を開発することを目指します。



※京都大学iPS細胞研究所



共同研究の状況

- 味の素製薬(株)と「消化器領域における特定のイオンチャネルを標的とした共同研究」を実施中です。
- 旭化成ファーマ(株)と「特定のイオンチャネルを標的とした共同研究」を実施中です。
- インタープロテイン(株)と「疼痛領域における特定の蛋白質間相互作用を標的とした共同研究」を実施中です。
- カルナバイオサイエンス(株)と「特定のキナーゼを標的とした創薬研究」を実施中です。

当社が注力する領域

ターゲット	化合物	適応症	探索	前臨床試験	臨床試験			申請	承認	販売	共同研究先	実施地域
					第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相					
イオンチャネル	同定中	消化器	●								味の素製薬	日本
		非開示	●								旭化成ファーマ	日本
蛋白質相互作用	同定中	疼痛	●								インタープロテイン	日本
キナーゼ	同定中	非開示	●								カルナバイオサイエンス	日本

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

平成27年2月現在

外部リソースを活用し、プログラムの開発を加速、プログラムの価値を上げ、将来的な収益を獲得



導出済みポートフォリオの状況



主なプログラム導出提携先の進捗

Aratna Therapeutics Inc.

平成26年 5月 EP₄拮抗薬(RQ-7)のイヌにおける大規模臨床試験を開始

Durata Therapeutics Inc.

平成26年 4月 ダルババンシンが米国FDA諮問委員会による承認推奨
5月 ダルババンシンが米国FDAで承認
7月 ダルババンシンが米国で販売開始

CJ ヘルスケア(旧CJ第一製糖)

平成25年 5月 アシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の韓国第Ⅱ相臨床試験開始

平成26年 ~ アシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の韓国第Ⅲ相臨床試験準備中



主な契約締結済み研究開発ポートフォリオの状況

平成27年2月現在

共同研究

プログラム	共同研究先	想定疾患領域
特定のイオンチャネル	味の素製薬株式会社	消化器系疾患領域
	旭化成ファーマ株式会社	(契約により非公開)

導出

プログラム	化合物コード	導出先	権利
EP ₄ 拮抗薬	RQ-00000007	丸石製薬	日本、韓国、中国、台湾 (注射剤)
		Aratana Therapeutics Inc.	全世界 (動物薬)
アシッドポンプ拮抗薬	RQ-00000004 RQ-00000774	CJヘルスケア (IHC)第一製糖)	韓国、中国、台湾、 東南アジア
グレリン受容体作動薬	RQ-00000005	Aratana Therapeutics Inc.	全世界 (動物薬)
ダルババンシン (抗MRSA抗菌剤)	RQ-00000002	Durata Therapeutics Inc.	日本
ジプラシドン (統合失調症・双極性障害薬)	RQ-00000003	Meiji Seika ファルマ	日本
5-HT ₄ 部分作動薬 (消化管領域)	RQ-00000010	CJヘルスケア (IHC)第一製糖)	韓国、中国、台湾、インド、 東南アジア

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

パイプラインの状況（ヒト領域）

平成27年2月現在

- **ダルババンシン(RQ-00000002)**は、米国FDAに申請し、承認を取得。販売を開始しました。
- **ジプラシドン(RQ-00000003)**は、第Ⅲ相臨床試験(国内)開始に向け支援を続けてまいります。
- **アシッドポンプ拮抗薬(RQ-00000004)**は、第Ⅱ相臨床試験(韓国)が完了、第Ⅲ相臨床試験の開始に向けて支援を続けてまいります。
- **5-HT₄部分作動薬(RQ-00000010)**は、第Ⅰ相臨床試験(韓国)開始に向け支援を続けてまいります。
- **EP₄拮抗薬**については丸石社による開発戦略及び計画策定を引き続き支援し、今後のマイルストーン収益及びロイヤリティ収益の早期獲得に努めます。

プロジェクト	化合物	主適応症	探索・前臨床	臨床試験			申請	承認	販売	導出先	契約地域
				第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相					
ダルババンシン	RQ-00000002	MRSA感染症	○	○	○	○	●	●	●	Durata Therapeutics	日本
ジプラシドン	RQ-00000003	統合失調症 双極性障害	○	○	○	○				Meiji Seika ファルマ	日本
アシッドポンプ拮抗薬	RQ-00000004	胃食道逆流症	○	○	○	○				CJヘルスケア	韓国・中国・台湾・東南アジア
	RQ-00000774		○ 計画中								日本
5-HT ₄ 部分作動薬	RQ-00000010	胃不全麻痺 機能性胃腸症	○ 第Ⅰ相準備中							CJヘルスケア	韓国、中国、台湾、インド、東アジア
EP ₄ 拮抗薬	RQ-00000007	慢性炎症性疼痛、急性痛等	○ 計画中							丸石製薬	日本、中国、韓国、台湾

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

- グレリン受容体作動薬については、ヒトのみならずペット動物向けの食欲亢進薬として開発できるよう、引き続き導出先企業と連携して開発に必要な情報を提供してまいります。
- EP₄拮抗薬については、ヒトのみならずペット動物の鎮痛剤として開発できるよう、引き続き導出先企業と連携して開発試験開始に向けて支援を続けてまいります。

プロジェクト	化合物	主適応症	探索研究～ 前臨床試験	臨床試験		上市	導出先	契約地域
				容量探索	大規模			
グレリン受容体作動薬	RQ-00000005	体重減少、 食欲不振	○	○	●		Aratana Therapeutics Inc.	全世界
EP ₄ 拮抗薬	RQ-00000007	変形性関節症	○	○	●			

平成27年12月期予算

平成26年12月期実績と平成27年12月期予算

【連結】	平成26年12月期 通期実績	平成27年12月期 通期計画(当期)
事業収益	153	600
営業損失	△2,183	△1,395
経常損失	△2,116	△1,415
当期純損失	△638	△1,661

事業収益

- ・RQ-4(アシッドポンプ拮抗薬)の日本権利の導出
- ・RQ-10 (5-HT₄部分作動薬)の医師主導治験の推進とGlobal戦略の策定と実行
- ・開発段階早期におけるモチリン受容体作動薬/5-HT_{2B}拮抗薬の導出
- ・ダルババンシンの日本での積極的な開発推進サポート
- ・消化器疾患領域ポートフォリオの中国展開の推進
- ・導出済みポートフォリオの開発進捗
- ・共同研究の推進/化合物開発ステージのアップ

事業費用

- ・名古屋大学への移転による施設関連費の削減効果(平成27年度第4四半期)
- ・産学官連携による探索の多様化とリスク分散化

平成27年12月期 ラクオリアの今後の取り組み

株主価値向上に向けた取り組み

- ◆ コアである消化器疾患プログラムの自社開発による開発ステージのアップとその価値の向上、プログラム導出による一時金収入の獲得
 - RQ-4(アシッドポンプ拮抗薬)の日本権利の導出
 - RQ-10 (5-HT₄部分作動薬)のVCUとの医師主導治験の推進とGlobal戦略の策定と実行
 - 5-HT_{2B}拮抗薬の自社による開発の推進
 - 開発段階早期におけるモチリン受容体作動薬/5-HT_{2B}拮抗薬の導出
 - グレリン受容体作動薬/TRPM8遮断薬の前臨床試験の検討と開始
 - 消化器疾患領域ポートフォリオの中国展開の推進

- ◆ アカデミア(名古屋大学)との産学連携/ビジネスパートナーとの共同研究の推進による魅力ある開発候補品の創製
 - 名古屋大学と具体的な研究テーマによる共同研究の開始と公的資金の獲得
 - 味の素製薬/旭化成ファーマとの共同研究の推進/化合物開発ステージのアップ
 - イオンチャネル創薬を中心とした新たな共同研究先との提携
 - 化学研究部の名古屋大学内への移転による創薬研究部門の業務最適化

株主価値向上に向けた取り組み

- ◆ プログラム導出提携先とのアライアンスマネジメントによる早期収益化の実現
 - アラタナ社の動物薬(RQ-5:グレリン受容体作動薬、RQ-7:EP₄拮抗薬)の上市に向けての積極的なサポート
 - ダルババンシンの日本での積極的な開発推進サポート
 - CJヘルスケア(旧CJ第一製糖、RQ-4:アシッドポンプ拮抗薬)の第Ⅲ相臨床試験開始のための積極サポート
 - Meiji Seika ファルマ(ジプラシドン)の第Ⅲ相臨床試験開始のための積極サポート

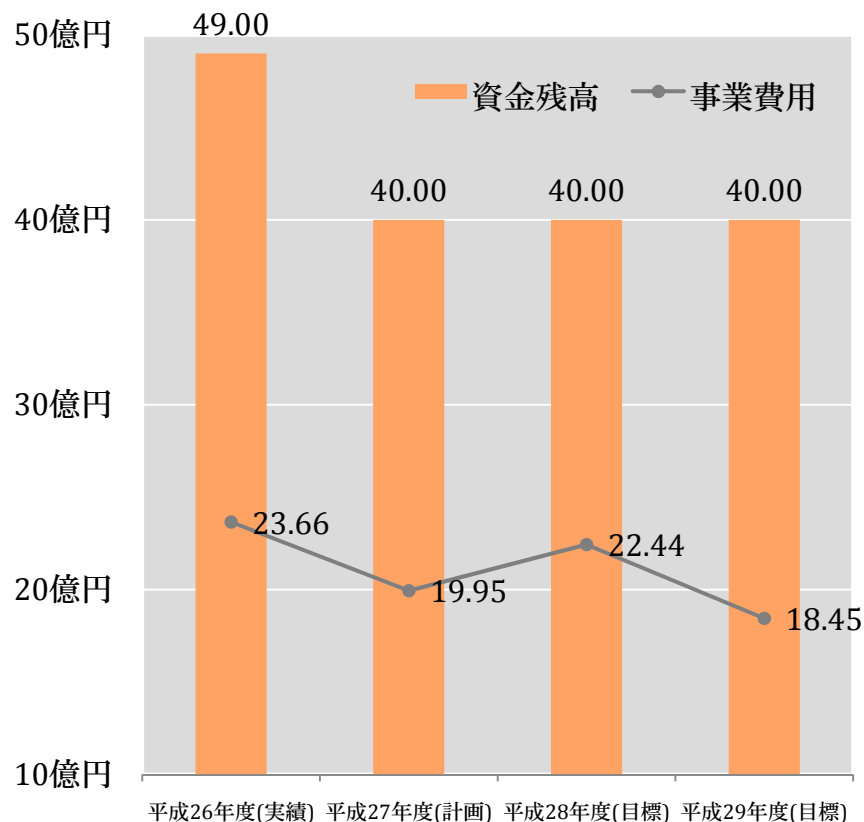
- ◆ 安定収入獲得までの所謂「死の谷」を越えうる資金調達の見直しと実行
 - 平成27年度末での資金残高40億円の維持

- ◆ 知的財産戦略による収益の源泉である特許の強化
 - 収益につながる知的財産戦略の実行

産学連携による創薬研究の加速



資金計画（3カ年）



基本方針

- 各年度の期末資金残高は40億円を維持
参考：平成26年度期末残高内訳
現預金・有価証券；約31億円
投資有価証券；約18億円
- 3カ年計画の最終年度の事業費用は、自社で行う前臨床試験および臨床試験を含めて18～19億円を目指す。
- 余剰資金はコアプログラムの開発費用とし、プログラム価値の向上を目指し、早期の収益化を目指す。

資金調達方法

- 新株予約権の行使（第三者割当増資）
- 保有資産の有効利用
- ストラクチャード・ファイナンス

安定収入獲得までの所謂「死の谷」を越えうる資金調達の実現



資金調達の状況

平成25年7月4日にメリルリンチ日本証券を割当先とした第8回新株予約権を発行

➡ **約2.7億円を調達** *平成26年7月22日に残存する新株予約権(2,210個)を取得・消却

平成25年12月11日に当社保有のアラタナ社株式(約56万株)の売却

➡ **約USD 10Mを調達(売却益:8億円)**

平成26年2月4日に当社保有のアラタナ社株式(100万株)の売却

➡ **約USD 18Mを調達(売却益:約15億円)**

平成26年7月22日にメリルリンチ日本証券を割当先とした第10回新株予約権を発行

➡ **約6.5億円を調達(交付株式:1,300,000株)**

第10回新株予約権の目的とその概要

新株予約権行使状況

未行使新株予約権数:910個(910,000株)

目的/資金使途

具体的な資金使途	金額(百万円)	支出予定時期
1. 5-HT ₄ 部分作動薬(RQ-10)及びアシッドポンプ拮抗薬(RQ-4)の研究開発費	600	2015年1月以降
2. 5-HT _{2B} 拮抗薬(RQ-00310941)及びモチリン受容体作動薬(RQ-00201894)の初期臨床試験	400	2015年1月以降
3. リード化合物の創出及び開発候補化合物の非臨床試験	366	2015年1月以降

募集の概要

1. 発行期日	平成26年7月22日
2. 発行新株予約権数	2,210個/新株予約権1個当たり6,600円(総額14,586,000円)
3. 潜在株式数	2,210,000株(2014年7月1日現在で総議決権数に対する最大希薄化率は16.3%)
4. 行使価額	当初行使価額 621円、上限行使価額はなし、下限行使価額は435円 【=発行決議日前日の終値x[70%]】
5. 資金調達の額	1,366,996,000円(差引手取概算額)
6. 募集又は割当方法、割当先	第三者割当ての方法による メリルリンチ日本証券株式会社
7. 本新株予約権の行使可能期間	平成26年7月23日-平成27年7月22日(1年)
8. その他	コミットメント条項付き第三者割当て契約を締結

ご注意：本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には、投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照ください。

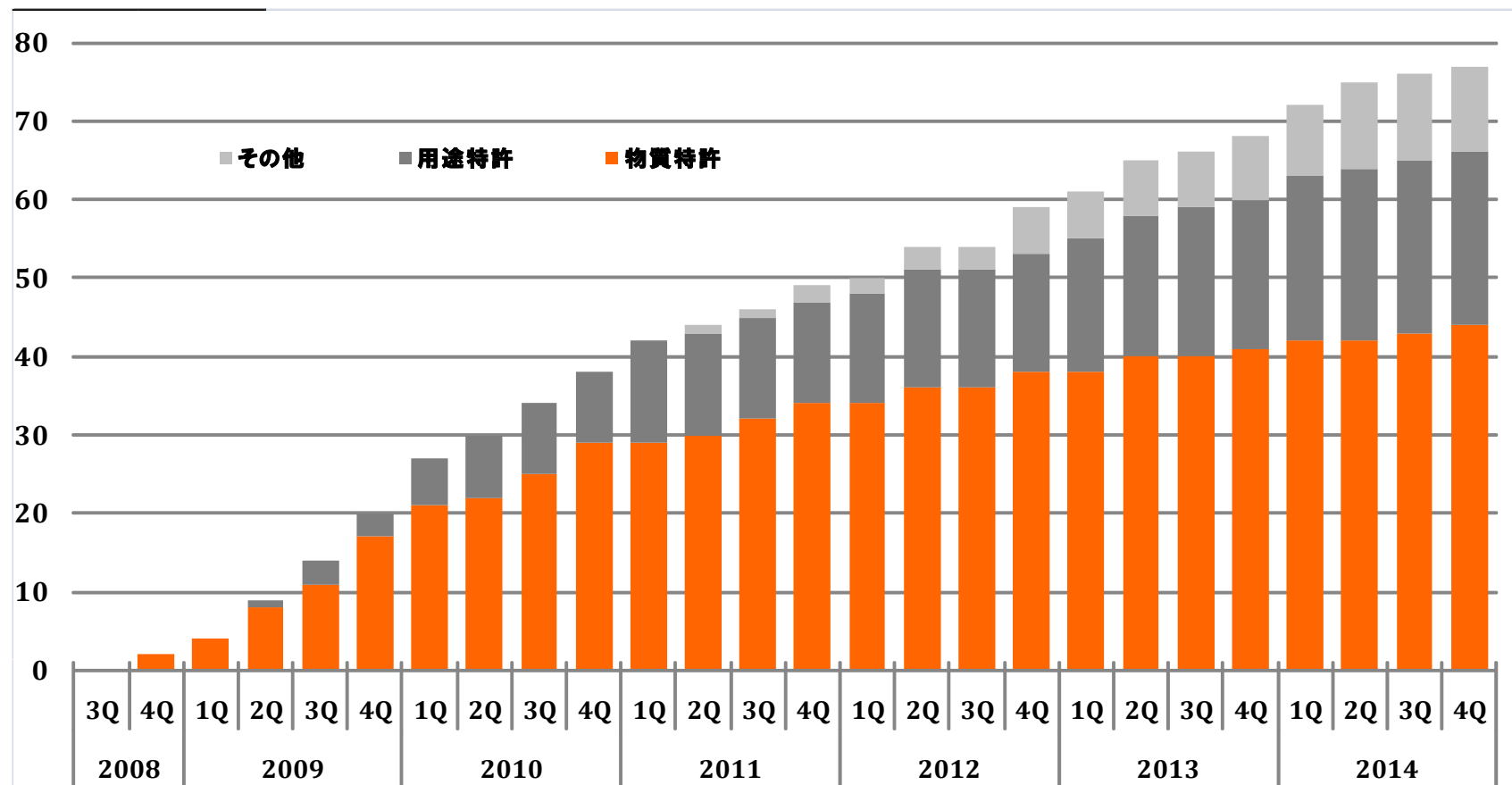


知的財産の強化（平成26年12月期）

平成26年12月期

- 1月7日 モチリン受容体作動薬の米国における特許査定
 - 2月6日 5-HT₄受容体部分作動薬の米国における特許査定
 - 5月12日 モチリン受容体作動薬の中国における特許査定
 - 5月28日 選択的ナトリウムチャンネル遮断薬の日本における特許査定
 - 8月20日 5-HT_{2B}拮抗薬の日本における特許査定
 - 9月30日 選択的ナトリウムチャンネル遮断の韓国における特許査定
 - 10月22日 モチリン受容体作動薬の日本における特許査定
 - 10月29日 EP₄拮抗薬の日本における特許査定
 - 12月25日 アシッドポンプ拮抗薬の日本における特許査定
- T型カルシウムチャンネル/電位依存性ナトリウムチャンネル遮断薬の日本における特許査定

● ラクオリア特許出願件数



※ 各国移行件数を除く

※ AskAt 社発明特許2件を含む

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
リスクや不確実性は、特に製品(研究開発プログラムおよび化合物)に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



RaQualia
innovators for life

お問合せ先

TEL:052-446-6100

(音声ガイダンス:「1」株式・IRに関するお問い合わせを選択)

E-mail:当社HPからお願いいたします。

<http://www.raqualia.co.jp>

ラクオリア創薬株式会社

Copyright RaQualia Pharma Inc. All Rights Reserved. 2015